

証券コード

5020



# JXホールディングス

## 2013年度 第2四半期決算説明資料

代表取締役社長            松下 功夫  
取締役常務執行役員    内島 一郎

2013年11月1日



エネルギー・資源・素材の<sup>みらい</sup>Xを。

JXホールディングス株式会社

# 目次

## 2013年度第2四半期決算の総括

- 事業環境 2
- 2013年度第2四半期決算概要 3
- 2013年度通期見通し概要 4

## 第2次中期経営計画の進捗

- 経常利益（在庫影響除き）・ROE推移 5
- 主要経営指標 6
- 事業戦略の進捗 7
- 主要投資案件 8
- 株主還元方針 11

## 2013年度第2四半期決算の概要

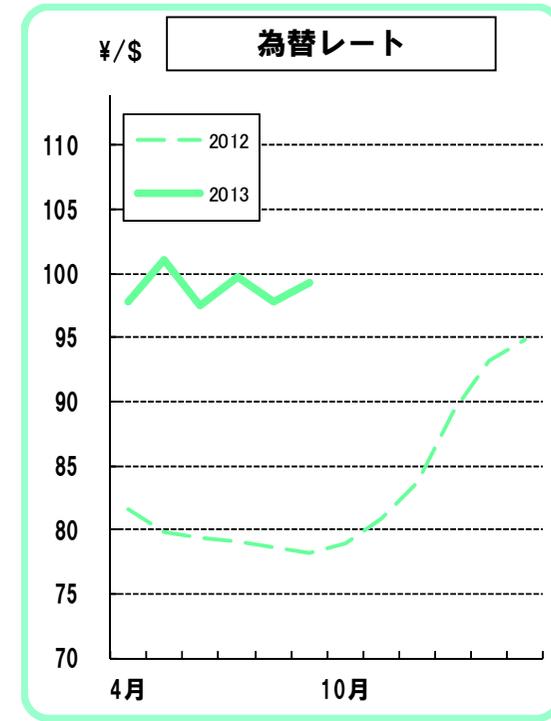
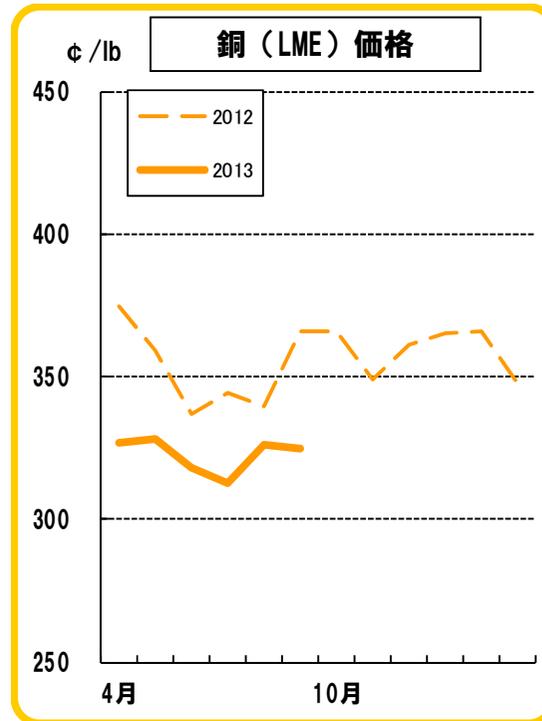
- 主なトピックス 13
- 白油4品・パラキシレンマージン推移 14
- 2013年度第2四半期決算 15

## 2013年度通期見通しの概要

- 2013年度通期見通し 22
- 前提条件 28
- 感応度 29

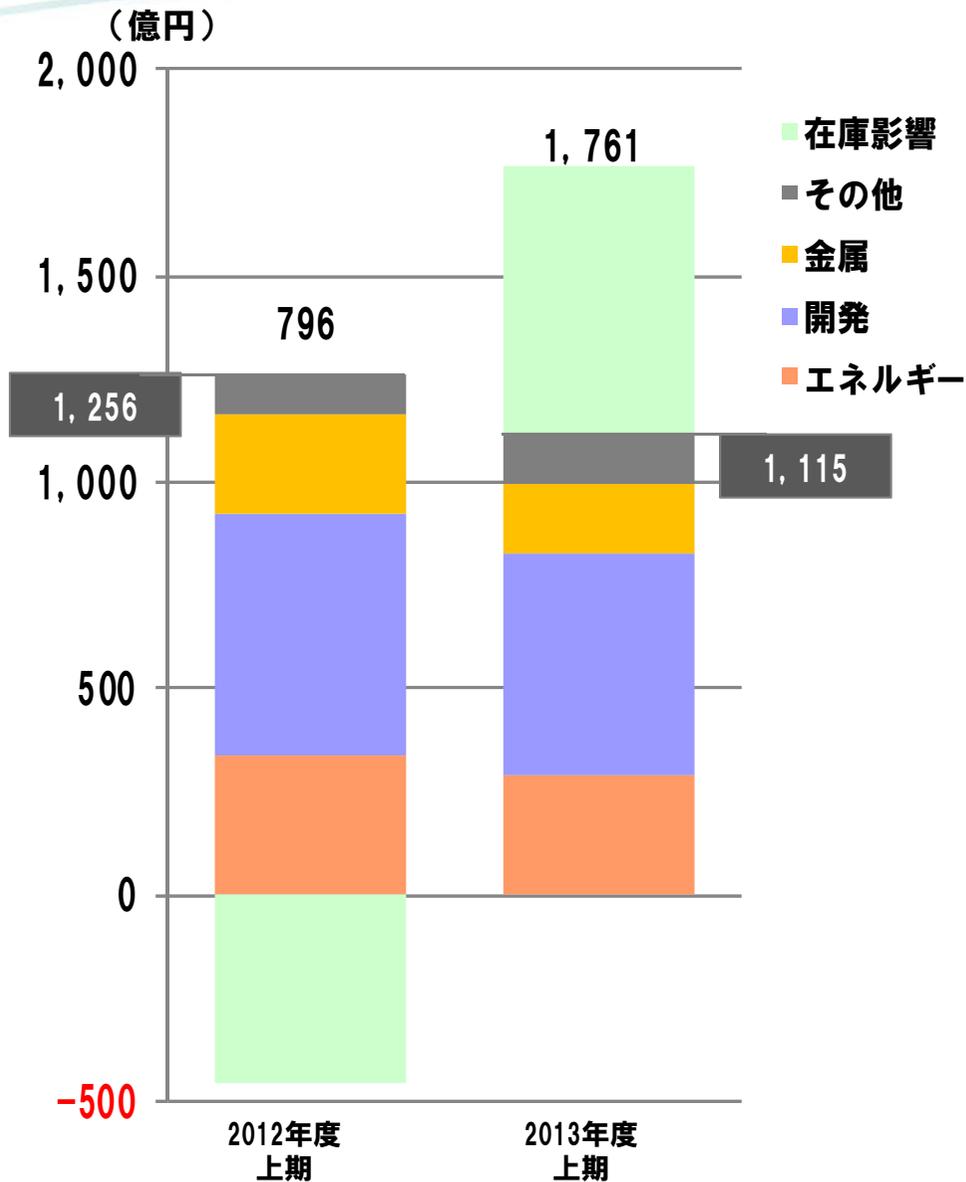
代表取締役社長 松下 功夫

取締役常務執行役員 内島 一郎



- 世界経済は欧州経済の低迷、新興国の景気拡大ペース鈍化などにより、先行き不透明な状況で推移。一方、日本経済は円安・株高が進行し、緩やかな回復基調。
- 原油価格は4-6月には米中の景気減速懸念により下落したものの、7月以降は地政学的要因から上昇。
- 銅価は中国での一層の需要鈍化の懸念により、下落傾向で推移。
- 円の対米ドル相場は、日本銀行の金融緩和策等を背景に円安基調で推移。

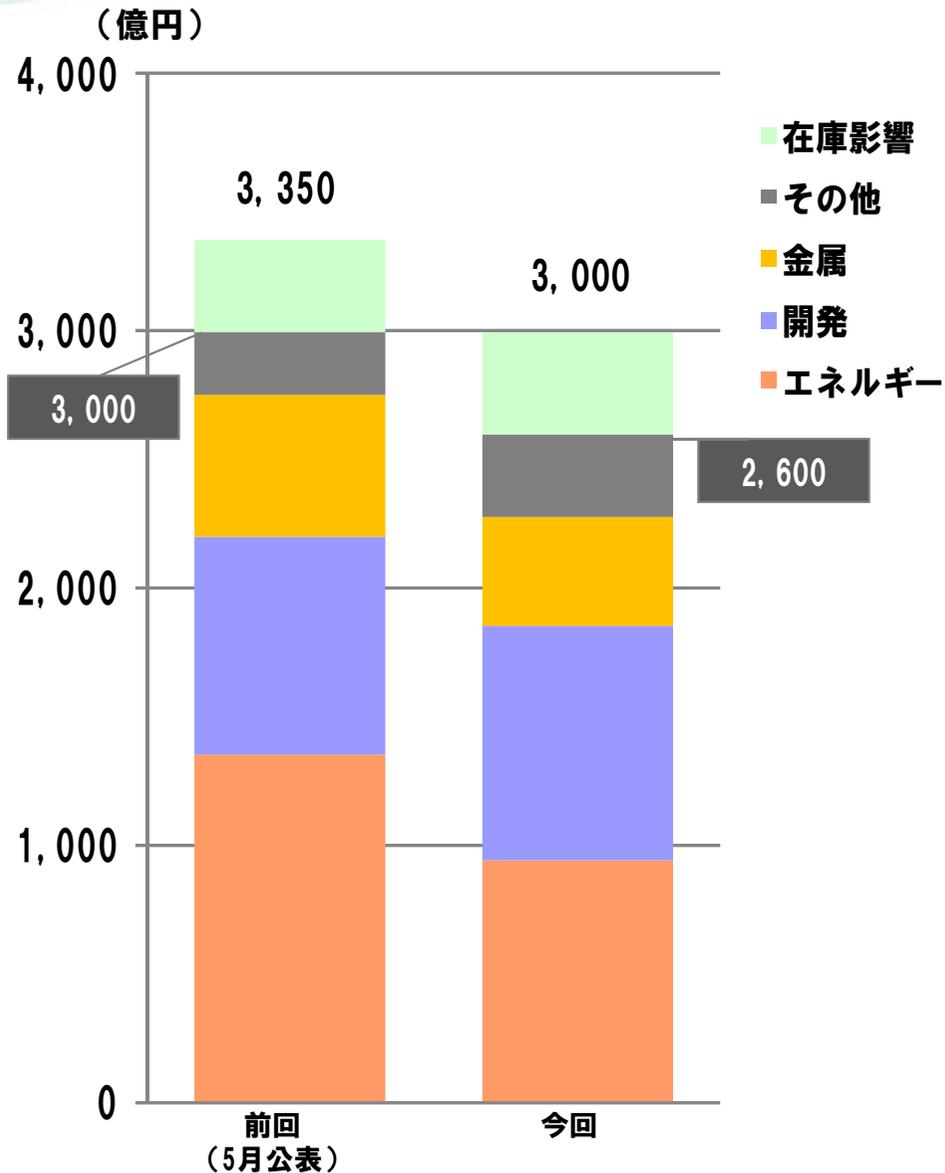
## 2013年度第2四半期決算概要（経常利益）



➤ 原油価格上昇・円安による在庫影響の拡大により、経常利益は前年比増益

➤ 在庫影響を除いた実質経常利益は、円安による増益効果はあるものの、石油製品マージンの悪化、銅価の下落等により、前年比減益

# 2013年度通期見通し概要（経常利益）



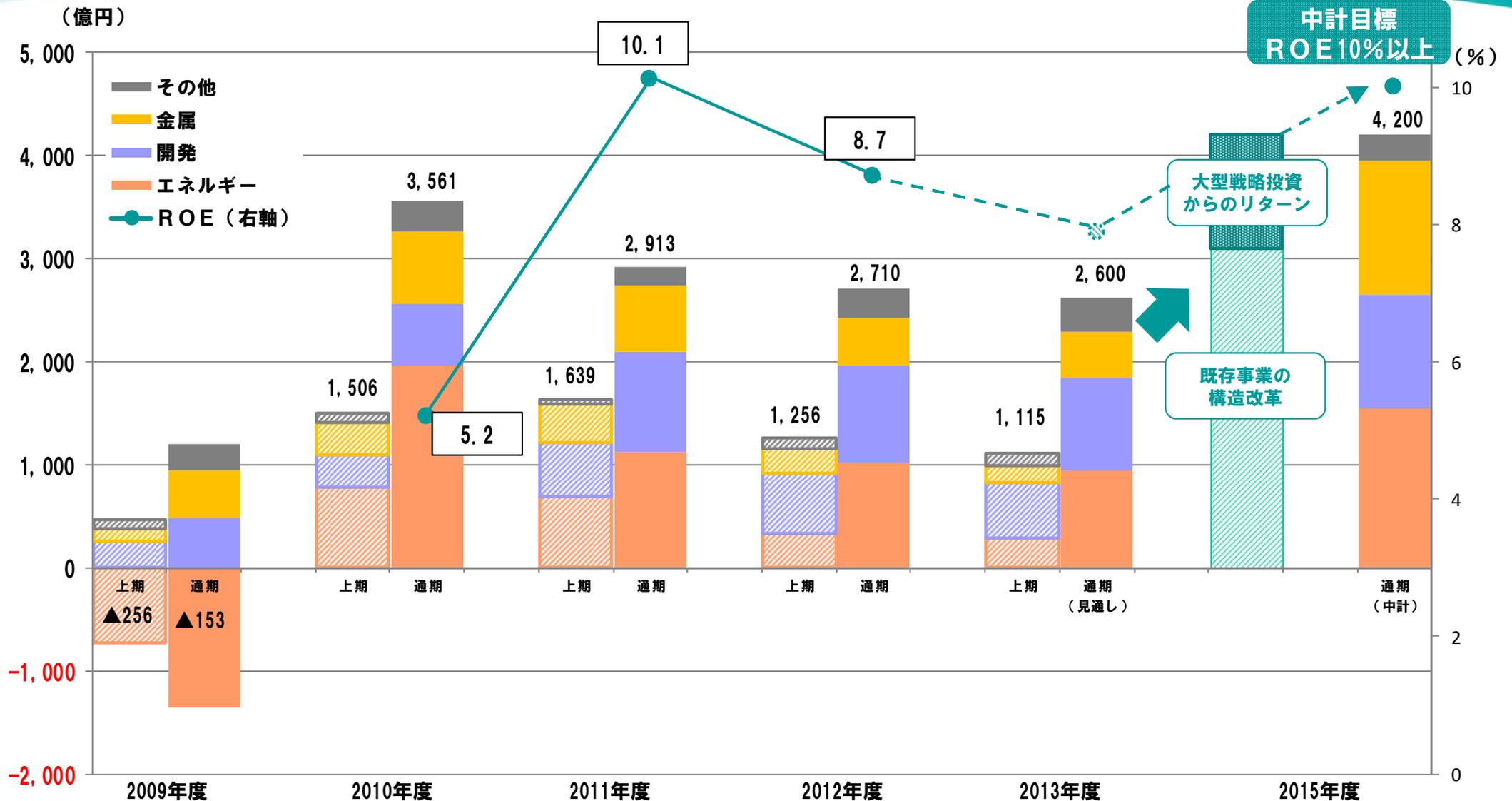
## ➤ 前提条件

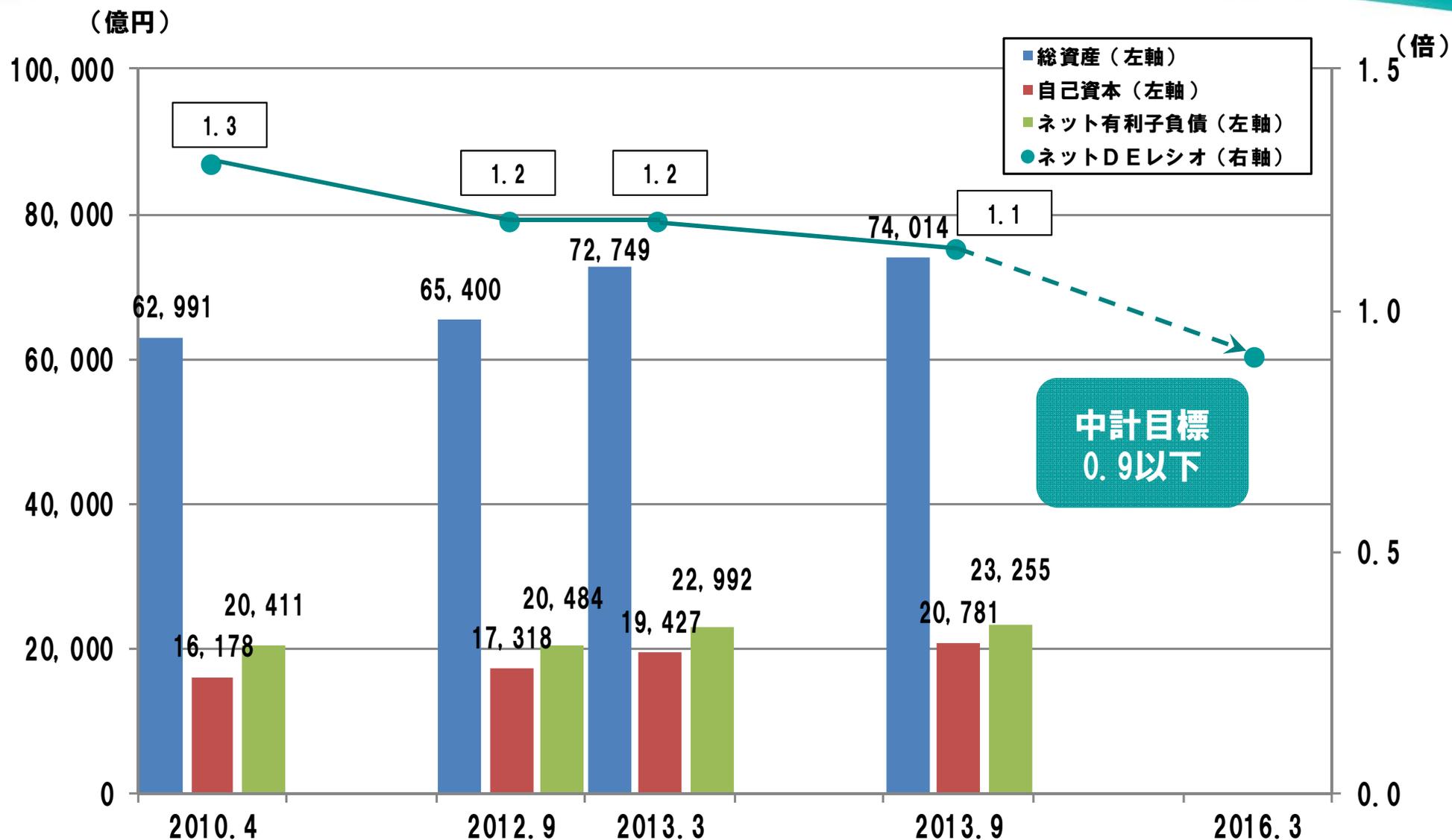
	今回 (10月以降)	5月公表 (4月以降)
原油価格 (\$/Bbl)	100	105
銅価 (¢/lb)	320	340
為替レート (¥/\$)	95	95

➤ コスト削減に努めたものの、  
第1四半期の石油製品マージン悪化、  
銅価・金属副産品価格の下落等により、  
経常利益は前回見通し比減益



# 経常利益（在庫影響除き）・ROE推移







## JXHD

- 6月 第3回定時株主総会を開催
- 7月 第5回および第6回無担保社債を発行
- 9月 ダウジョーンズ構成銘柄に継続採用
- 10月 日本証券アナリスト協会によるディスクロージャー優良企業賞に選定

## JXエネルギー

- 4月 日本初となるガソリンスタンド一体型水素ステーションを神奈川県海老名市にオープン
- 5月 中京圏初となるガソリンスタンド一体型水素ステーションを愛知県名古屋市にオープン
- 8月 福島県・秋田県・沖縄県でのメガソーラー発電事業開始を決定
- 8月 鹿島製油所への溶剤脱れき装置および発電装置の設置を公表**
- 10月 山口県でのメガソーラー発電事業開始を決定

## JX開発

- 5月 オーストラリア北西大陸棚フィヌケインサウス油田が商業生産を開始
- 6月 オーストラリア北西大陸棚において探鉱区権益を取得
- 6月 ベトナム南部海上探鉱区でガス・コンデンセート層を確認
- 7月 佐渡南西沖における試掘調査を終了
- 7月 オーストラリア北西大陸棚WA-49-R鉱区においてガスを発見
- 9月 マレーシア・サラワク州沖における新規探鉱区を取得

## JX金属

- 4月 精密部材・コネクタ等製造する掛川新工場が操業開始
- 10月 カセロネスプロジェクトの進捗状況を公表**

# 主要投資案件（エネルギー事業）

## 鹿島製油所 SDA

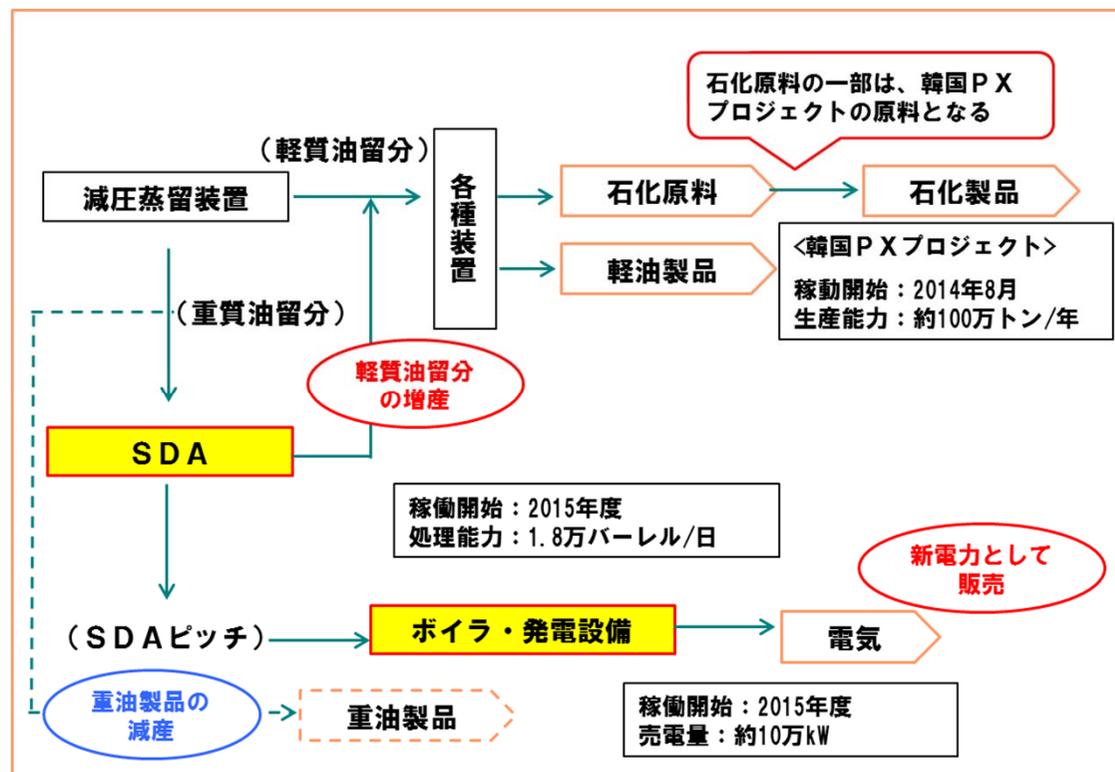
鹿島製油所内に、SDA（溶剤脱れき装置）および発電設備の設置を決定  
⇒製油所ボトム対策の進捗

### <SDA>

- 完成時期：2015年度中
- 処理能力：1.8万バレル/日
- 石油精製過程で生成する重質油留分を、軽質油留分と超重質なSDAピッチに分離
- 増産される石化原料の一部は、韓国PXプロジェクト原料としても利用

### <発電設備>

- 完成時期：2015年度中
- 売電量：約10万Kw（予定）
- SDAピッチ（SDA残渣）を燃料として発電



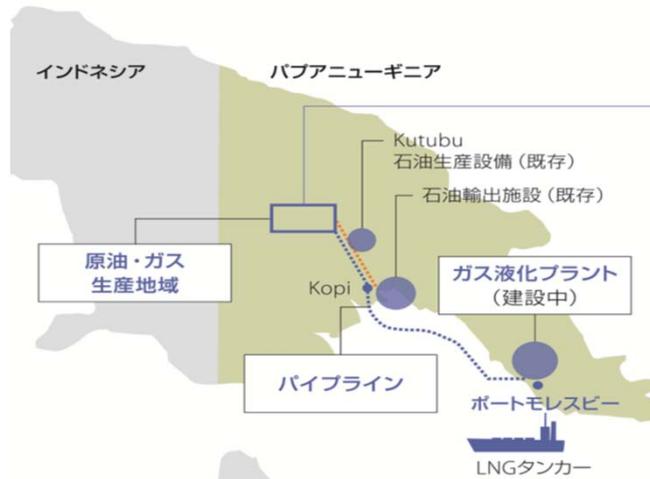
# 主要投資案件（石油・天然ガス開発事業）

## 最近の主な成果

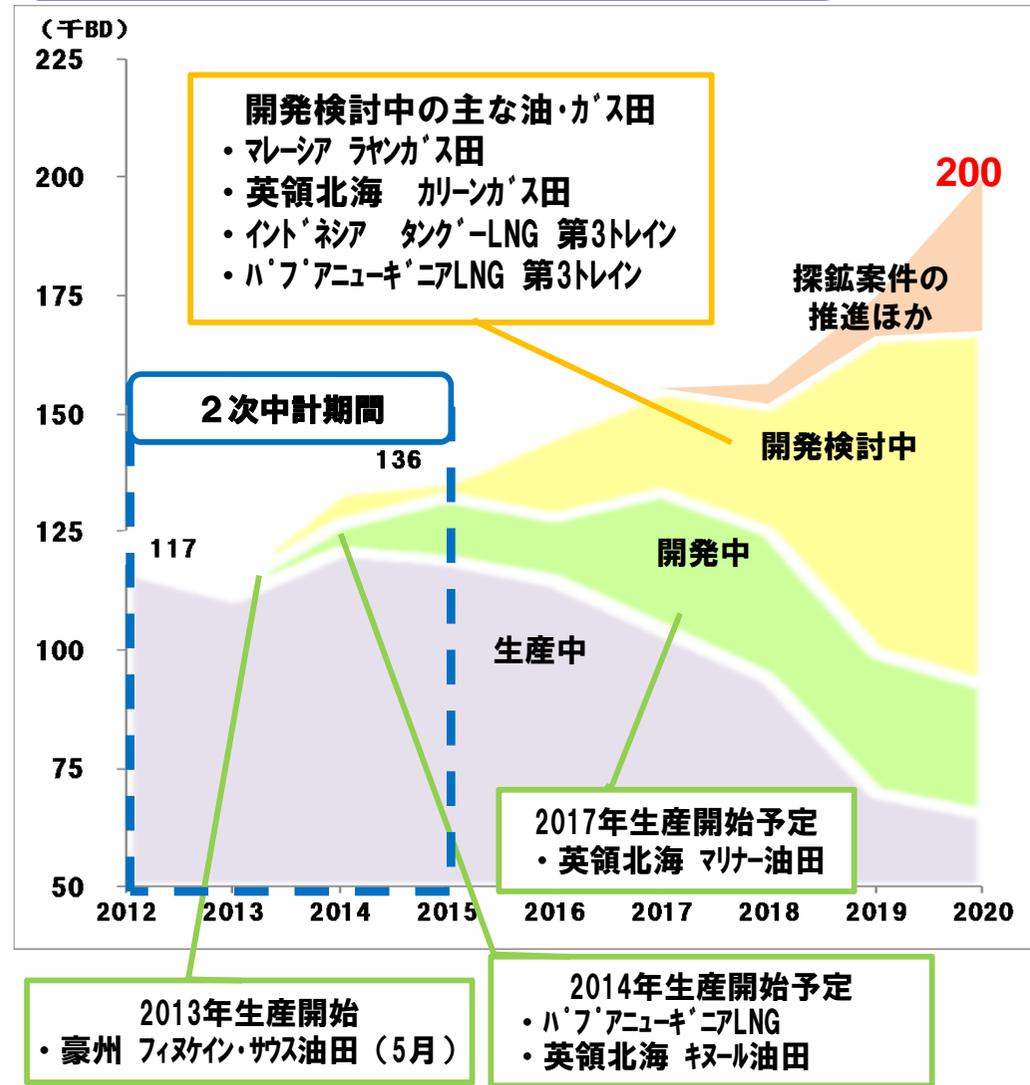
- <5月> オーストラリア フィヌケインサウス油田生産開始
- <6月> オーストラリア北西大陸棚の探鉱鉱区権益を取得
- <6月> ベトナム探鉱鉱区でガス・コンデンセート層を確認
- <7月> オーストラリア北西大陸棚海上鉱区でガスを発見
- <9月> マレーシア サラワク州沖の探鉱鉱区を取得

## LNGプロジェクト（PNG）の進捗

- LNG販売契約締結済み（650万トン）
- 出荷開始に向けた開発作業が順調に進捗（2014年出荷開始予定）



## 生産量の計画

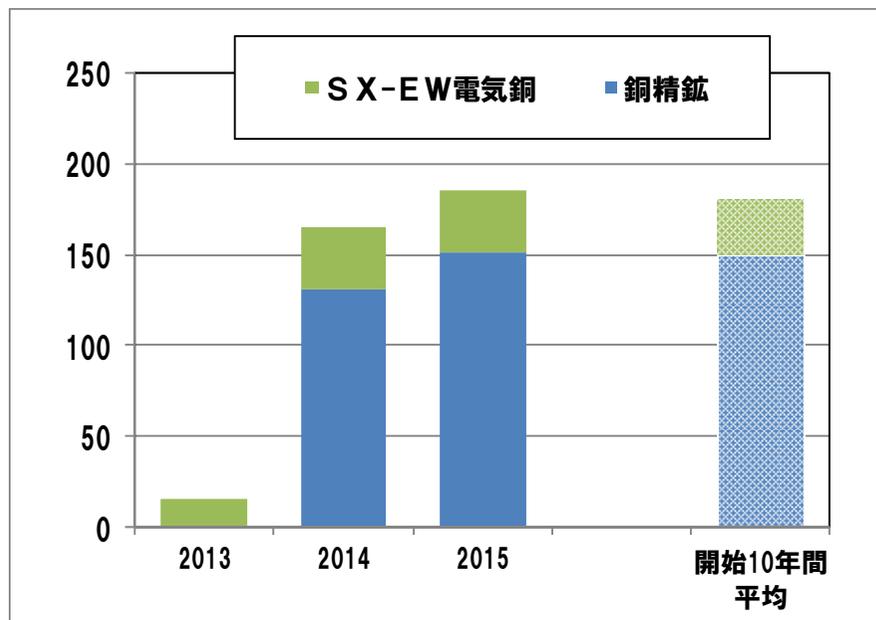


# 主要投資案件（金属事業）

## カセロネスプロジェクトの進捗

2013年10月11日 公表内容

- 初期投資額 42億ドル
- 銅精鉱生産開始 2014年1月
- 総生産量（28年間） 銅：355万トン（銅精鉱314万トン、SX-EW電気銅41万トン）  
モリブデン：8万7千トン（年間3千トン）
- 生産計画（大きな変更なし）
  - 28年間の長期に亘り、銅精鉱の安定調達に寄与
  - 初期投資額増加も、2015年度の利益計画に大きな影響なし



# 株主還元方針

## 還元に関する基本方針

連結業績を反映した利益還元の実施を基本としながら、  
安定的な配当の継続に努めてゆく。

## 第2次中計期間における還元の考え方

基本方針に基づき、第2次中計期間（2013～15年度）においては、  
1株当たり年間16円の配当の継続に努めるとともに、  
毎期の業績・投資計画・財務体質の状況等を勘案して、  
株主還元を検討してゆく。

## 参考）2010～13年度配当金推移

	2010	2011	2012	2013（予想）
配当（円/株）	15.5	16.0	16.0	16.0
一株利益（円/株）	34 *	69	64	60

\*負ののれん一括償却益を除く

**2013年度第2四半期決算**  
**(2013年4月1日～2013年9月30日)**

# 主なトピックス（2013年4月～2013年10月）



## JXHD

- 6月 第3回定時株主総会を開催
- 7月 第5回および第6回無担保社債を発行
- 9月 ダウジョーンズ構成銘柄に継続採用
- 10月 日本証券アナリスト協会によるディスクロージャー優良企業賞に選定

## JXエネルギー

- 4月 日本初となるガソリンスタンド一体型水素ステーションを神奈川県海老名市にオープン
- 5月 中京圏初となるガソリンスタンド一体型水素ステーションを愛知県名古屋市にオープン
- 8月 福島県・秋田県・沖縄県でのメガソーラー発電事業開始を決定
- 8月 鹿島製油所への溶剤脱れき装置および発電装置の設置を公表
- 10月 山口県でのメガソーラー発電事業開始を決定

## JX開発

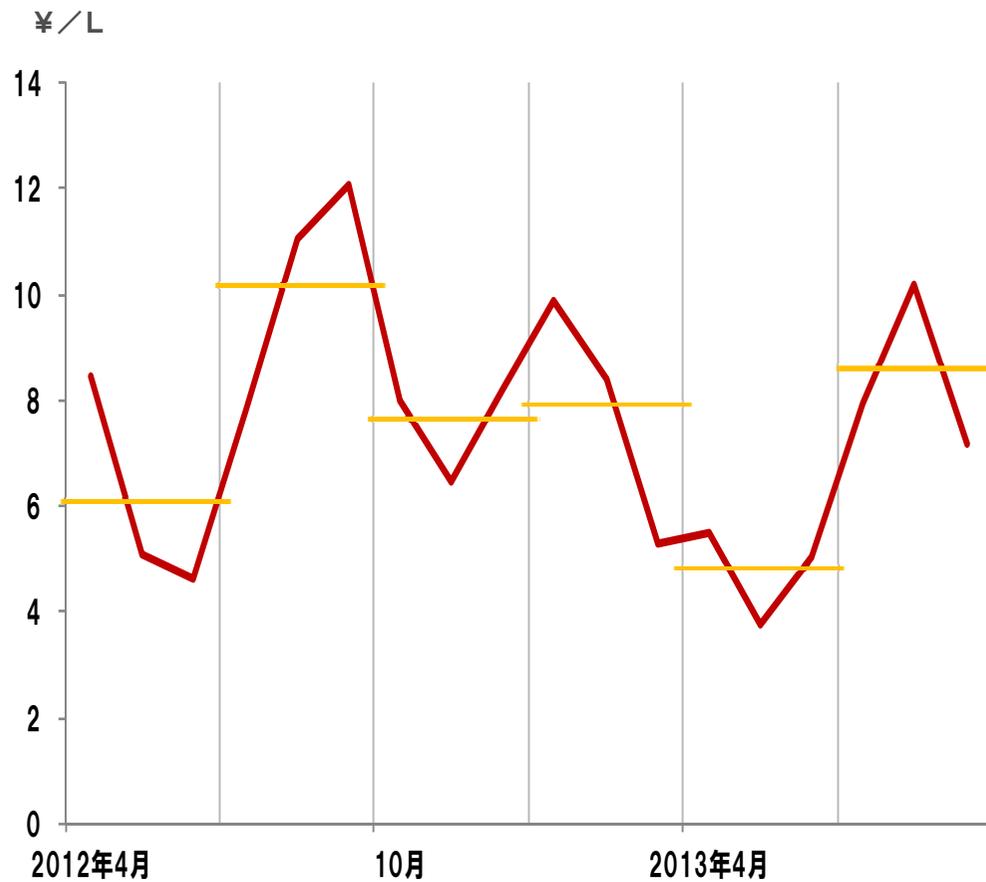
- 5月 オーストラリア北西大陸棚フィヌケインサウス油田が商業生産を開始
- 6月 オーストラリア北西大陸棚において探鉱区権益を取得
- 6月 ベトナム南部海上探鉱区でガス・コンデンセート層を確認
- 7月 佐渡南西沖における試掘調査を終了
- 7月 オーストラリア北西大陸棚WA-49-R鉱区においてガスを発見
- 9月 マレーシア・サラワク州沖における新規探鉱区を取得

## JX金属

- 4月 精密部材・コネクタ等を製造する掛川新工場が操業開始
- 10月 カセロネスプロジェクトの進捗状況を公表

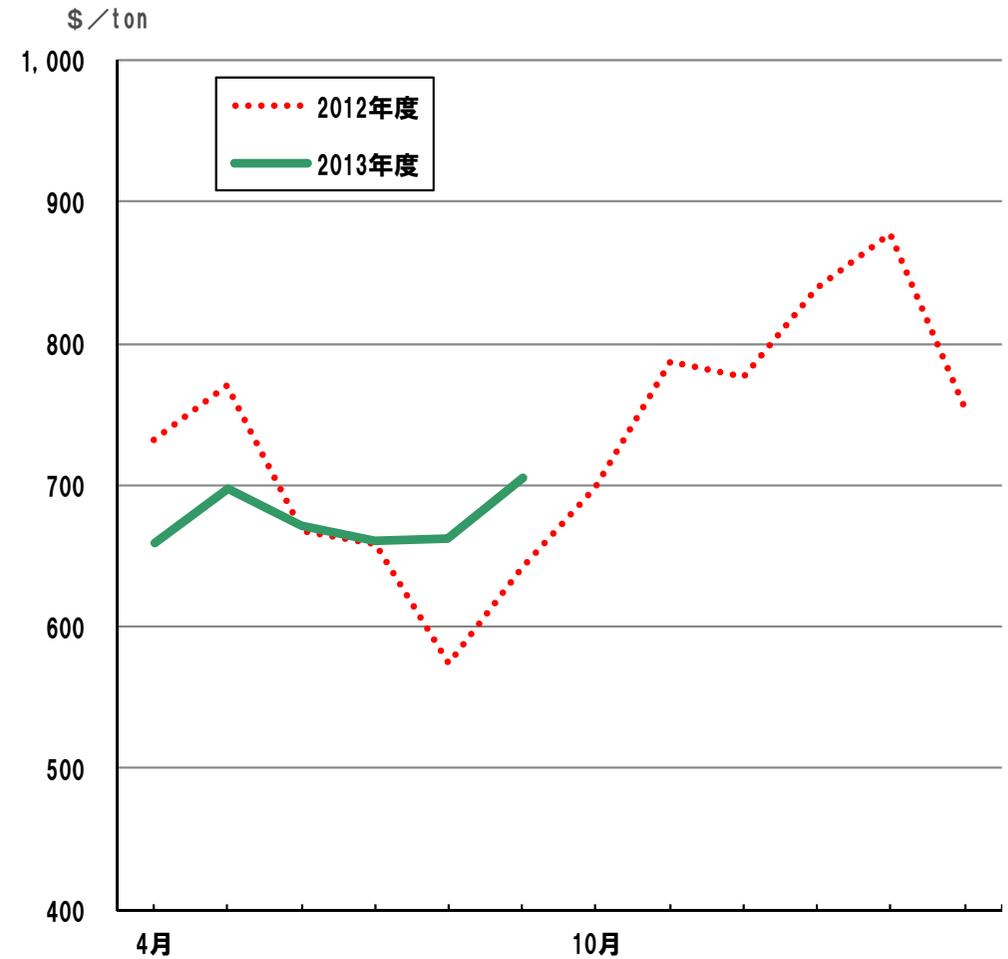
# 白油4品・パラキシレンマージン推移

## 白油4品マージン推移



\* スポット価格－全国通関原油C I F (石油税・金利含み)

## パラキシレンマージン推移



\* ACP－原油価格 (当月ドバイスポット)

# 2013年度第2四半期 決算概要 (前年比)

\* 3月から8月の平均(=到着ベース)

## 2012年度 第2四半期 (実績)

原油代(トハ'イ) (\$/B) *	108
銅 価 (¢/lb)	353
為替レート (¥/\$)	79
	(億円)
売上高	51,891
営業利益	374
営業外損益	422
経常利益	796
(うち在庫影響)	(▲460)
在庫影響除き経常利益	1,256
特別損益	▲108
当期純利益	268

## 2013年度 第2四半期 (実績)

原油代(トハ'イ) (\$/B) *	103
銅 価 (¢/lb)	323
為替レート (¥/\$)	99
	(億円)
売上高	57,777
営業利益	1,394
営業外損益	367
経常利益	1,761
(うち在庫影響)	( 646 )
在庫影響除き経常利益	1,115
特別損益	▲70
当期純利益	897

## 差 異

	▲5	▲5%
暦年へ'ス	(▲25)	▲30
暦年へ'ス	(▲7%)	▲8%
暦年へ'ス	(+16)	+20
暦年へ'ス	(+20%)	+25%
	(億円)	
	+5,886	+11%
	+1,020	+273%
	▲55	▲13%
	+965	+121%
	(+1,106)	( - )
	▲141	▲11%
	+38	-
	+629	+235%

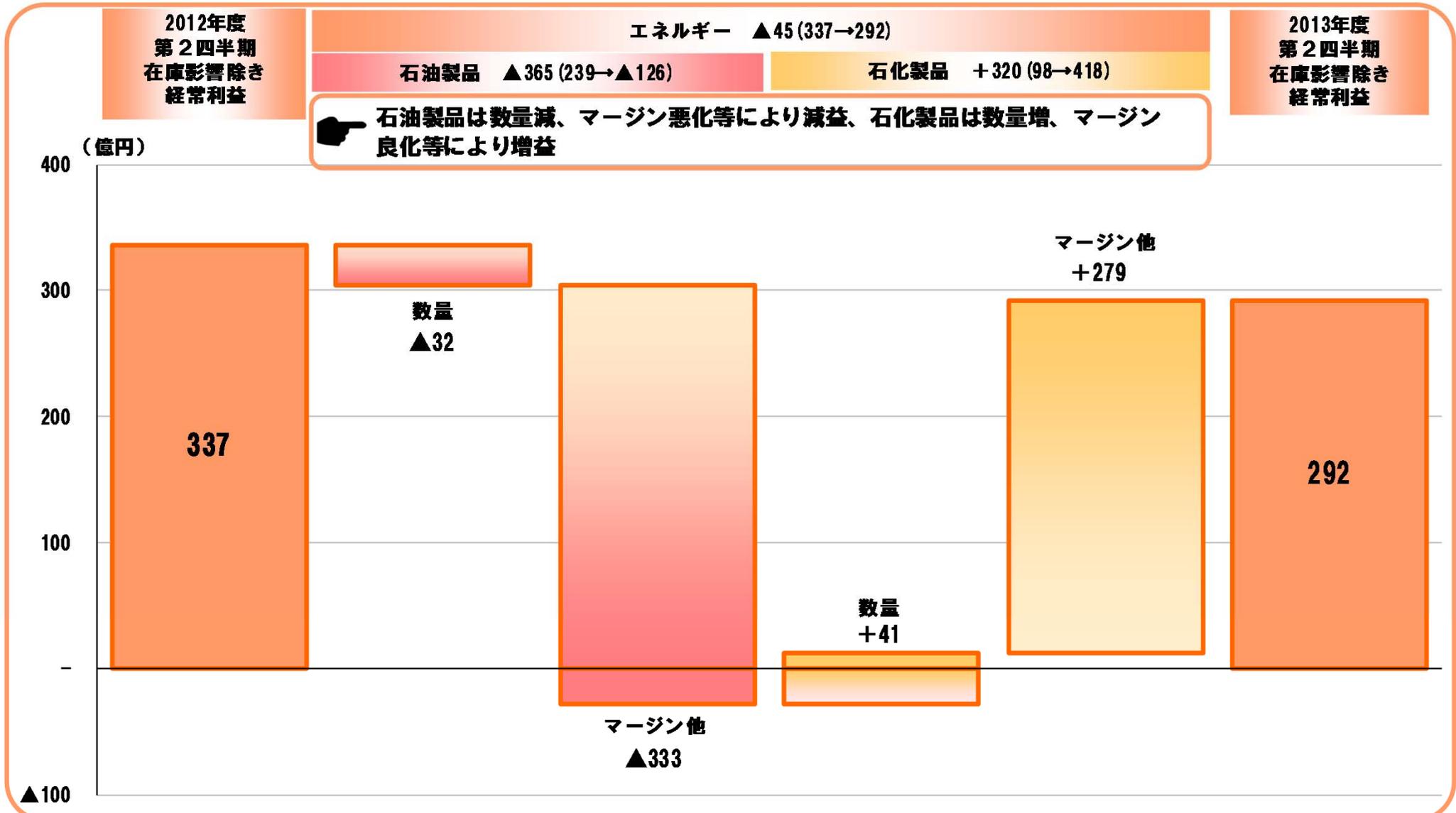
# 2013年度第2四半期 セグメント別経常利益

(前年比)

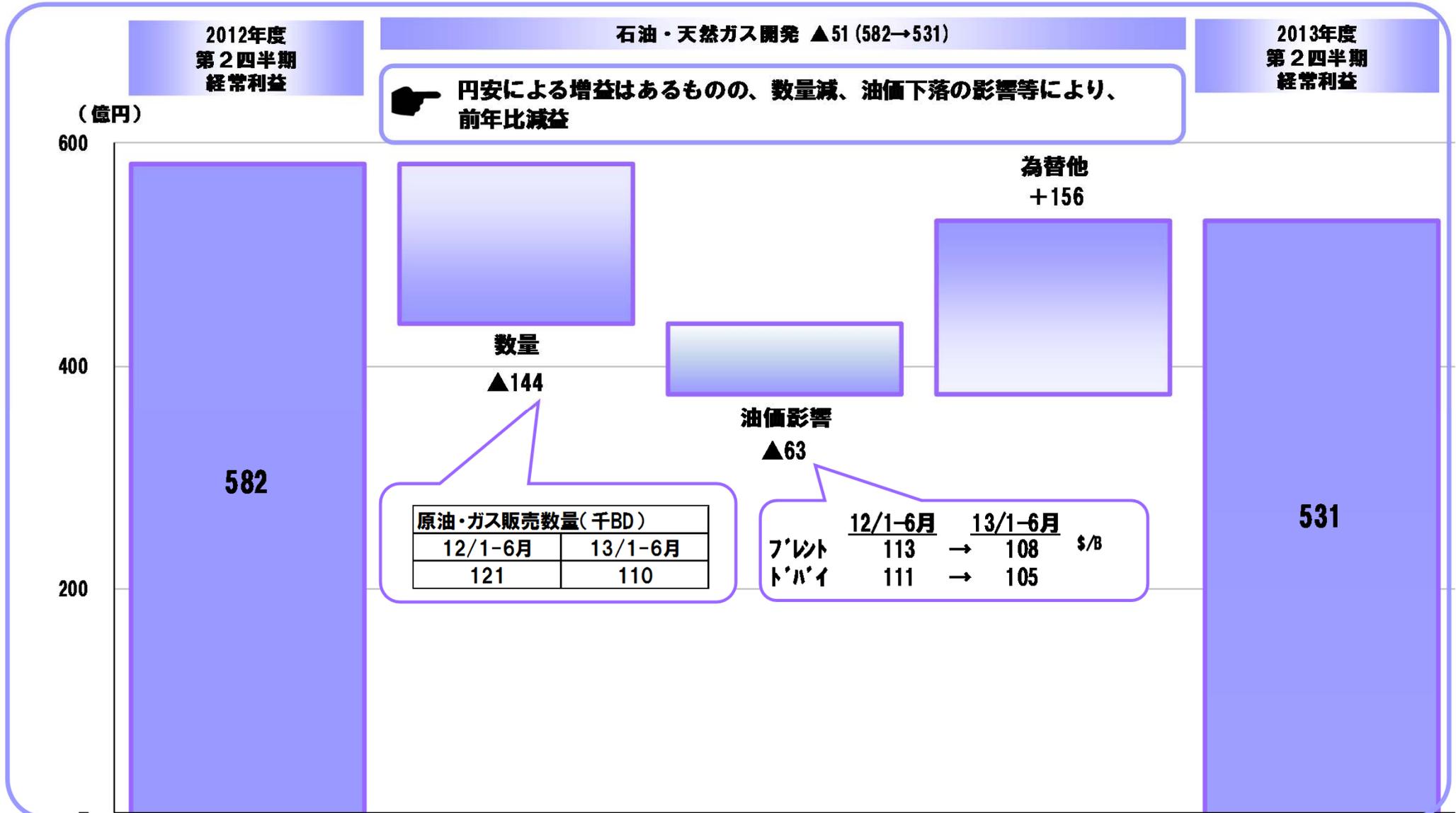


	2012年度 第2四半期 (実績)	2013年度 第2四半期 (実績)	差 異	
	(億円)	(億円)	(億円)	
エネルギー事業	▲96	914	+1,010	-
（うち在庫影響）	( ▲433 )	( 622 )	( +1,055 )	-
在庫影響除き	337	292	▲45	▲13%
（うち石油製品）	( 239 )	( ▲126 )	( ▲365 )	-
（うち石油化学製品）	( 98 )	( 418 )	( +320 )	+327%
石油・天然ガス開発事業	582	531	▲51	▲9%
金属事業	216	196	▲20	▲9%
（うち在庫影響）	( ▲27 )	( 24 )	( +51 )	-
在庫影響除き	243	172	▲71	▲29%
その他	94	120	+26	+28%
経常利益 計	796	1,761	+965	+121%
在庫影響除き	1,256	1,115	▲141	▲11%

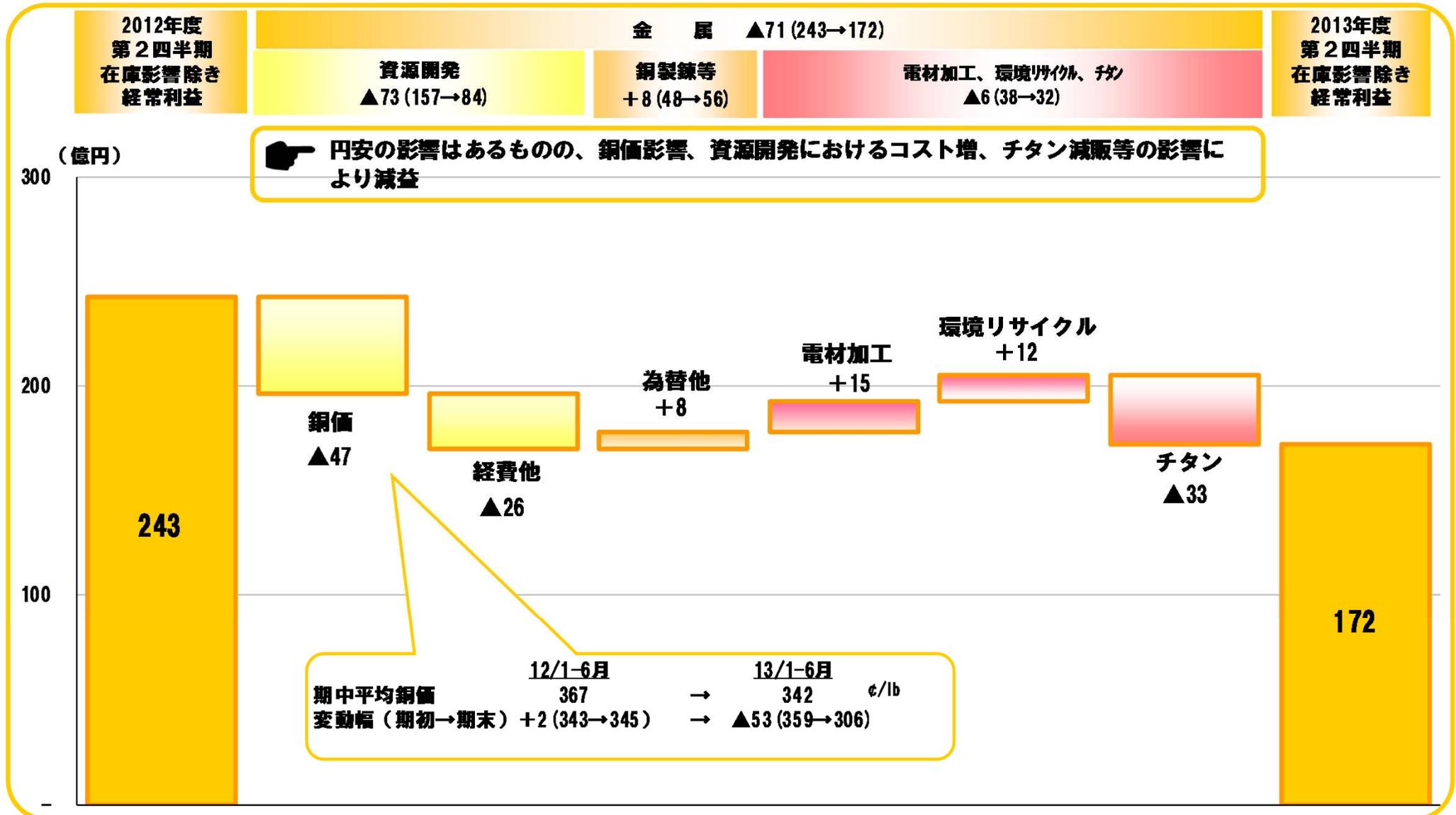
# 2013年度第2四半期 エネルギー事業 経常利益増減 (前年比)



# 2013年度第2四半期 石油・天然ガス開発事業 経常利益増減 (前年比)



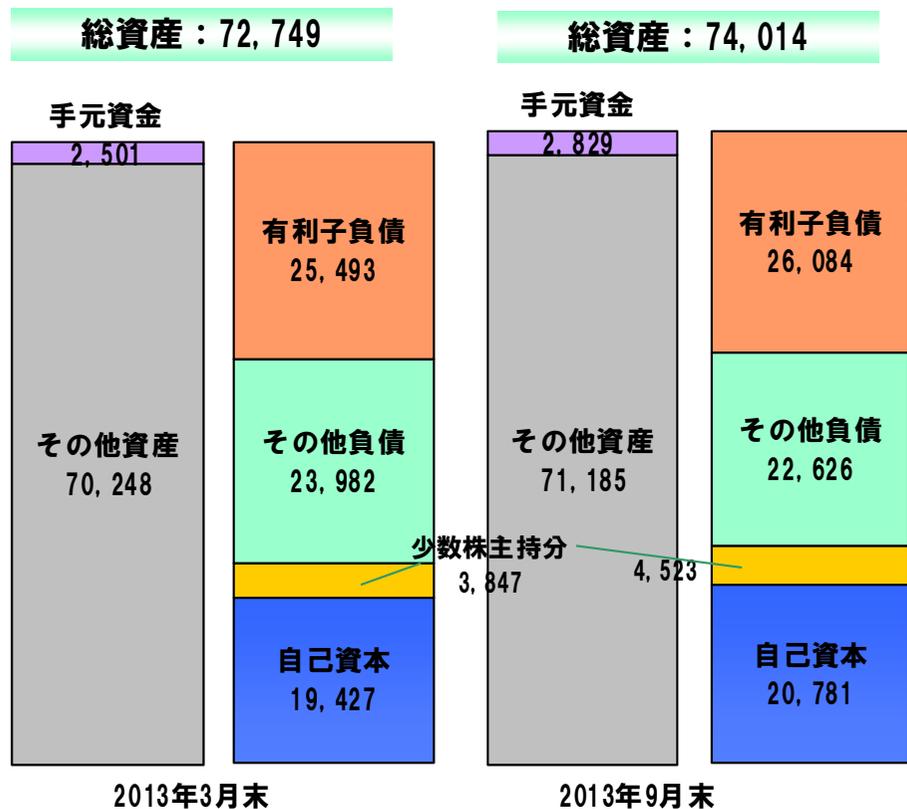
# 2013年度第2四半期 金属事業 経常利益増減 (前年比)



# 2013年9月末 連結バランスシート 2013年度第2四半期 連結キャッシュフロー



(連結バランスシート)



手元資金を除いたネット  
有利子負債は263億円増加

(連結キャッシュフロー)

経常利益	1,761
減価償却費	906
運転資金	152
法人税他	▲374
<b>営業キャッシュフロー</b>	<b>2,445</b>
<b>投資キャッシュフロー</b>	<b>▲2,481</b>
<b>フリーキャッシュフロー</b>	<b>▲36</b>
配当他	79
<b>ネットキャッシュフロー</b>	<b>43</b>

	2013年3月末 (実績)	2013年9月末 (実績)
自己資本比率	26.7%	28.1
ネットD/Eレシオ	1.18	1.12

## 2013年度決算見通し (2013年4月1日～2014年3月31日)

- ✓ 2013年10月以降の見通し前提は、原油価格100ドル/バーレル、銅価320セント/ポンド、為替レート95円/ドル

# 2013年度 通期見通し 概要 (前回見通し比)

\* 3月から2月の平均 (≒到着ベース)

原油代(トバイ) (\$/B) *
銅 価 (¢/lb)
為替レート (¥/\$)
売上高
営業利益
営業外損益
経常利益 (うち在庫影響)
在庫影響除き経常利益
特別損益
当期純利益

2013年度 見通し (5月公表)	
	105
暦年へ-ス (345)	340
暦年へ-ス (94)	95
(億円)	
	122,500
	2,550
	800
	3,350
( 350 )	
	3,000
	▲250
	1,700

2013年度 見通し (今回)	
	102
暦年へ-ス (331)	321
暦年へ-ス (96)	97
(億円)	
	118,600
	2,150
	850
	3,000
( 400 )	
	2,600
	▲250
	1,500

差 異			
	▲3		▲3%
暦年へ-ス (▲14)	▲19	暦年へ-ス (▲4%)	▲6%
暦年へ-ス (+2)	+2	暦年へ-ス (+2%)	+2%
(億円)			
	▲3,900		▲3%
	▲400		▲16%
	+50		+6%
	▲350		▲10%
( +50 )		( +14% )	
	▲400		▲13%
	±0		-
	▲200		▲12%

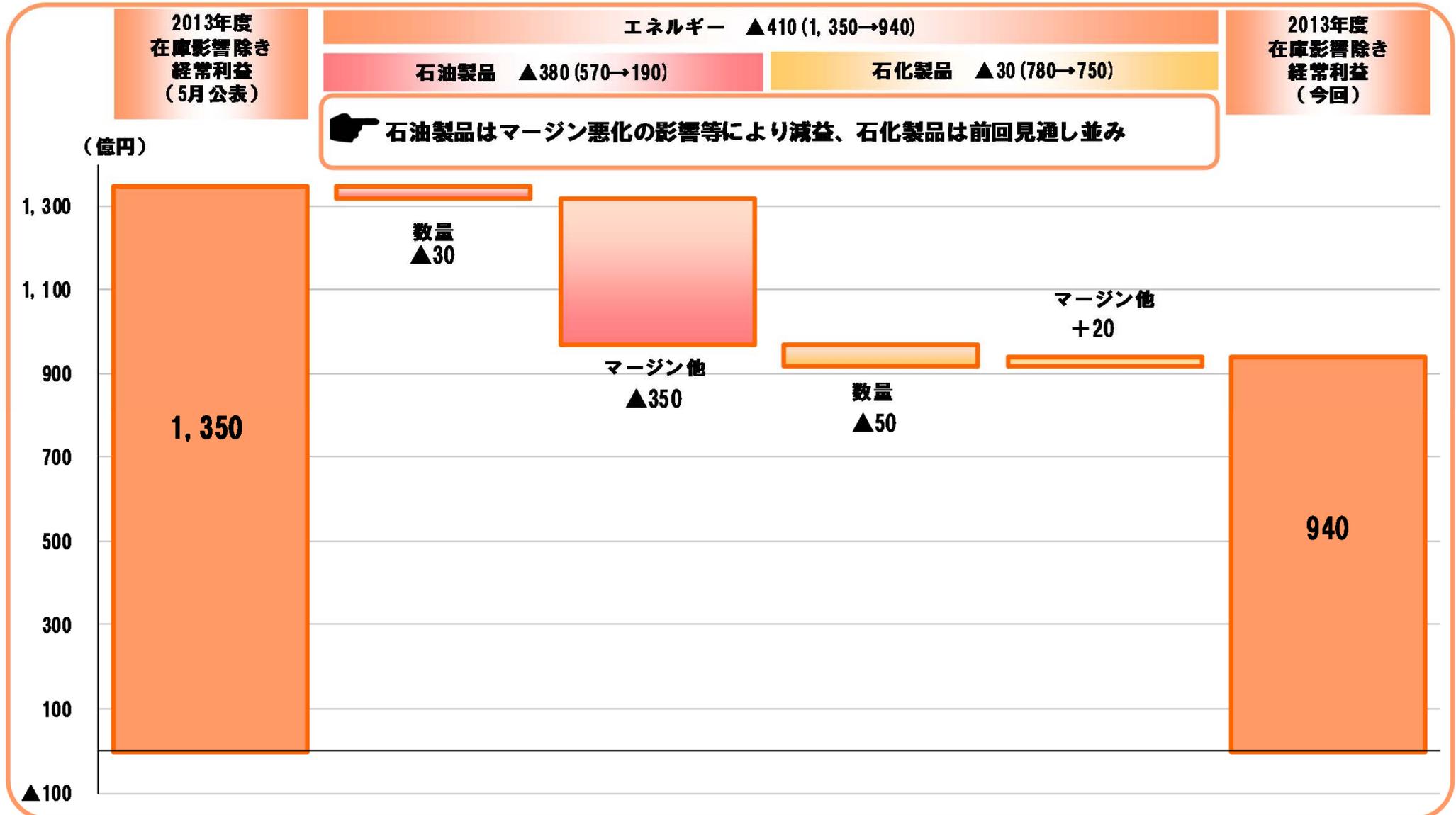
# 2013年度 セグメント別経常利益（前回見通し比）



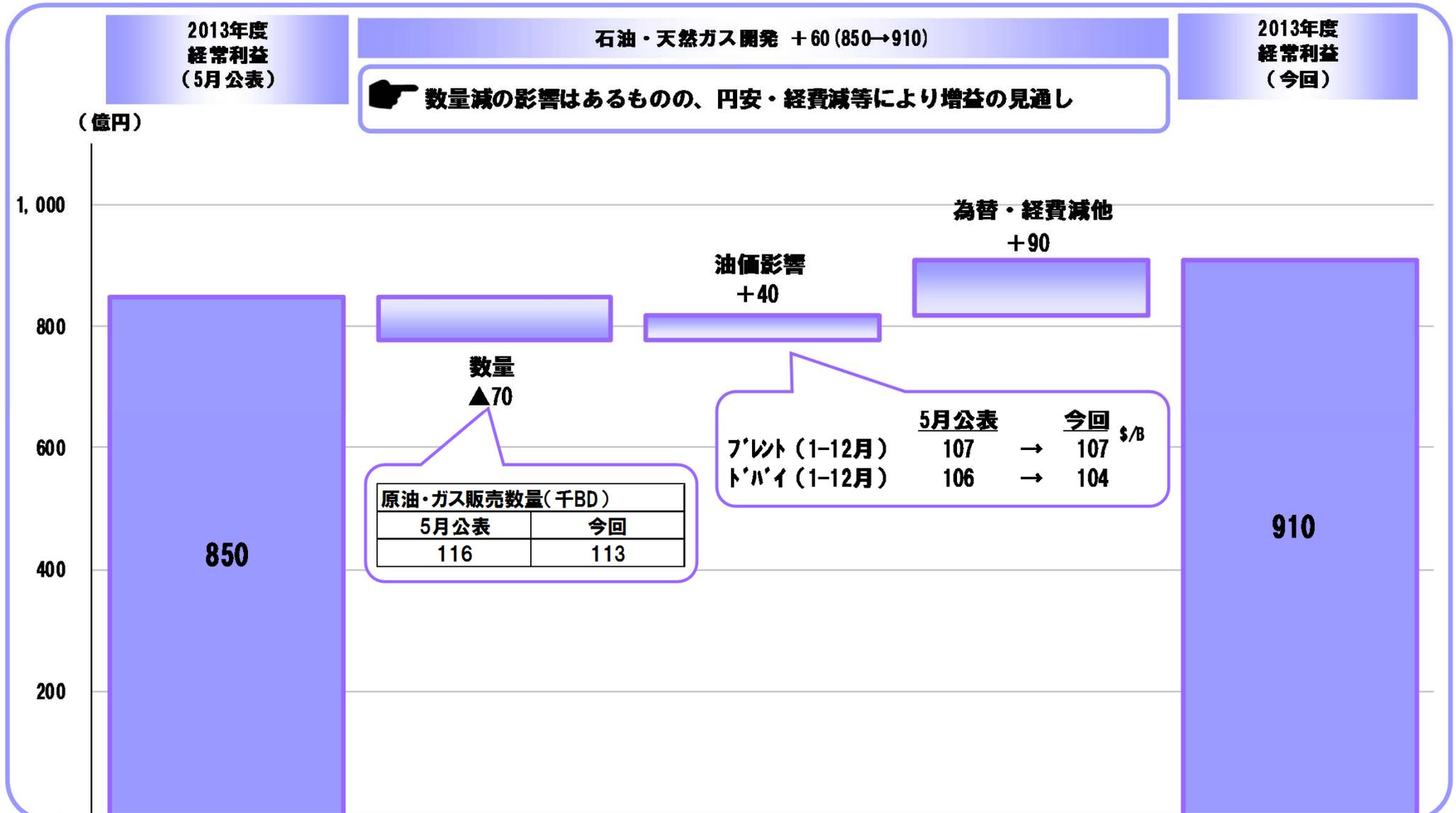
	2013年度 見通し (5月公表)	2013年度 見通し (今回)	差 異	
	(億円)	(億円)	(億円)	
<b>エネルギー事業</b>	<u>1,700</u>	<u>1,320</u>	<u>▲380</u>	<u>▲22%</u>
（うち在庫影響）	( <u>350</u> )	( <u>380</u> )	( <u>+30</u> )	<u>+9%</u>
<b>在庫影響除き</b>	<u>1,350</u>	<u>940</u>	<u>▲410</u>	<u>▲30%</u>
（うち石油製品）	( <u>570</u> )	( <u>190</u> )	( <u>▲380</u> )	<u>▲67%</u>
（うち石油化学製品）	( <u>780</u> )	( <u>750</u> )	( <u>▲30</u> )	<u>▲4%</u>
<b>石油・天然ガス開発事業</b>	<u>850</u>	<u>910</u>	<u>+60</u>	<u>+7%</u>
<b>金属事業</b>	<u>550</u>	<u>440</u>	<u>▲110</u>	<u>▲20%</u>
（うち在庫影響）	( <u>-</u> )	( <u>20</u> )	( <u>+20</u> )	<u>-</u>
<b>在庫影響除き</b>	<u>550</u>	<u>420</u>	<u>▲130</u>	<u>▲24%</u>
<b>その他</b>	<u>250</u>	<u>330</u>	<u>+80</u>	<u>+32%</u>
<b>経常利益 計</b>	<u>3,350</u>	<u>3,000</u>	<u>▲350</u>	<u>▲10%</u>
<b>在庫影響除き</b>	<u>3,000</u>	<u>2,600</u>	<u>▲400</u>	<u>▲13%</u>

# 2013年度 エネルギー事業 経常利益増減

(前回見通し比)

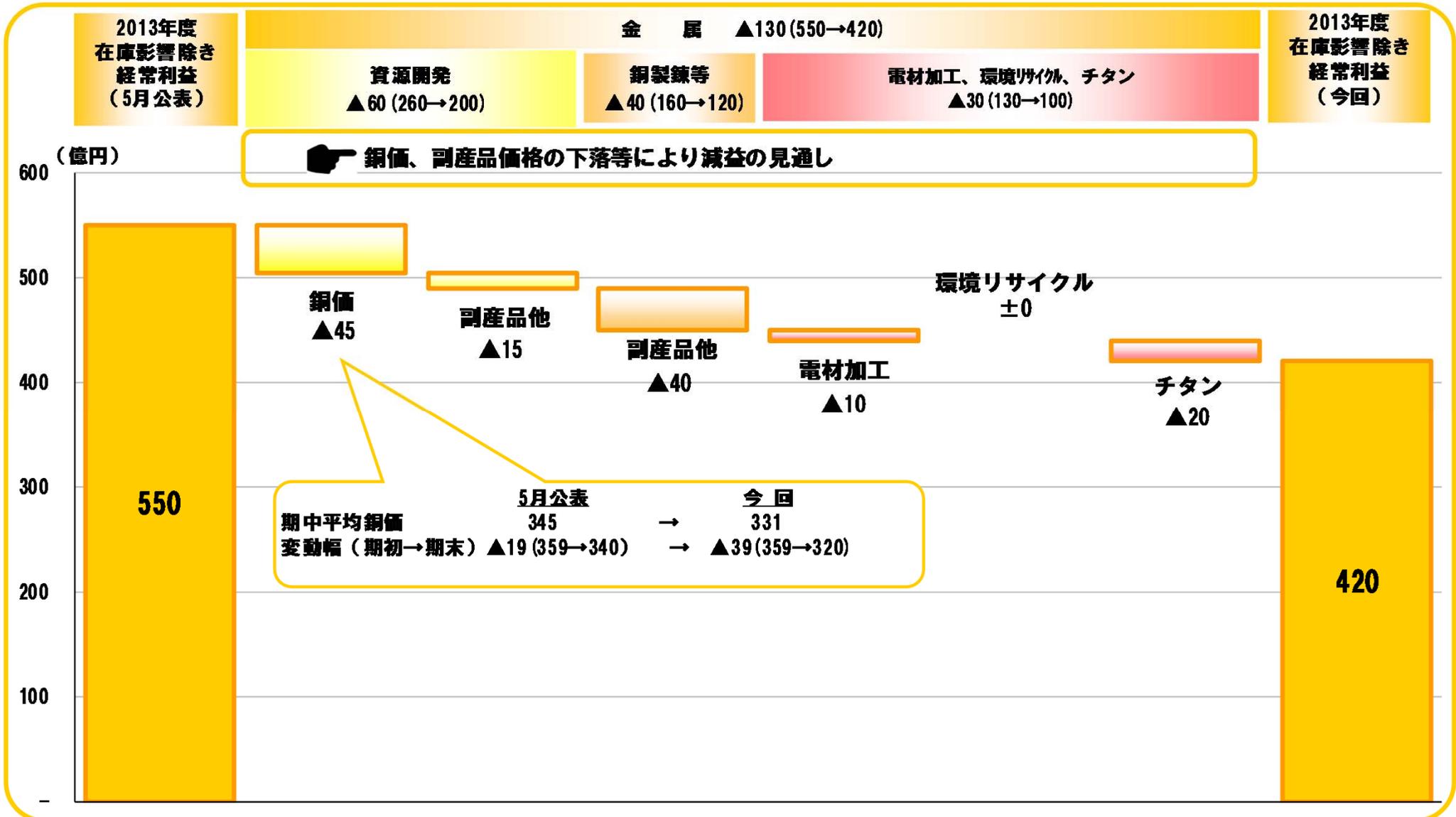


# 2013年度 石油・天然ガス開発事業 経常利益増減 (前回見通し比)



# 2013年度 金属事業 経常利益増減

(前回見通し比)



# 2013年度 セグメント別経常利益（前年比）



	2012年度 (実績)	2013年度 (見通し)	差 異	
	(億円)	(億円)	(億円)	
<b>エネルギー事業</b>	1,616	1,320	▲296	▲18%
（うち在庫影響）	( 588 )	( 380 )	( ▲208 )	▲35%
<b>在庫影響除き</b>	1,028	940	▲88	▲9%
（うち石油製品）	( 561 )	( 190 )	( ▲371 )	▲66%
（うち石油化学製品）	( 467 )	( 750 )	( +283 )	+61%
<b>石油・天然ガス開発事業</b>	936	910	▲26	▲3%
<b>金属事業</b>	440	440	±0	+0%
（うち在庫影響）	( ▲15 )	( 20 )	( +35 )	-
<b>在庫影響除き</b>	455	420	▲35	▲8%
<b>その他</b>	291	330	+39	+13%
<b>経常利益 計</b>	3,283	3,000	▲283	▲9%
<b>在庫影響除き</b>	2,710	2,600	▲110	▲4%

# 前提条件

		2012年度			2013年度		
		1Q	上期	通期	1Q	上期	通期
		実績	実績	実績	実績	実績	見通し (11月公表)
共通	為替レート (円/ドル)	80	79	83	99	99	97
エネルギー	ドバイ原油価格<年度>* (ドル/バーレル)	116	108	109	103	103	102
石油・天然 ガス開発	原油換算販売数量 (千バーレル/日)	131	121	117	115	110	113
	ブレント原油価格<暦年> (ドル/バーレル)	119	113	109	113	108	107
金属	銅価格LME<暦年> (セント/ポンド)	377	367	361	360	342	331
	銅鉱山権益生産量 (千トン/期・年)	25	52	105	28	59	126
	PPC銅販売量 (千トン/期・年)	134	267	551	148	289	582
	圧延銅箔販売量 (千km/月)	2.8	2.7	2.7	2.5	3.0	3.2
	精密圧延品生産品販売量 (千トン/月)	3.4	3.5	3.3	3.3	3.4	3.6
	環境リサイクル金回収量 (トン/期・年)	1.1	2.9	5.8	1.3	3.1	6.1

\*到着ベース

# 感応度

## ■前提条件（2013年10月以降）

為替：95円／ドル

原油：100ドル／バーレル  
（ドバイスポット）

銅価：320セント／ポンド

## ■市況変動による2013年度経常利益への影響額

項目	変動幅	変動項目	影響度	
			(億円)	
為替レート	1円/ドル 円安	エネルギー（燃費増、石化マージン良化等）	(±)	0
		石油・天然ガス開発	(+)	5
		金属（マージン良化、為替換算差等）	(+)	5
		小計	(+)	10
		在庫影響	(+)	70
		合計	(+)	80
原油FOB (ドバイスポット)	1ドル/バーレル 上昇	エネルギー（燃費増等）	(-)	10
		石油・天然ガス開発	(+)	5
		小計	(-)	5
		在庫影響	(+)	70
		合計	(+)	65
銅価 (LME)	10セント/ポンド 上昇	金属	(+)	20
		合計	(+)	20

\*石油・天然ガス開発・金属は10～12月（3か月間）の影響額です。

本資料には、将来見通しに関する記述が含まれていますが、実際の結果は、様々な要因により、これらの記述と大きく異なる可能性があります。かかる要因としては、

- (1) マクロ経済の状況またはエネルギー・資源・素材業界における競争環境の変化
- (2) 法律の改正や規制の強化、
- (3) 訴訟等のリスク など

が含まれますが、これらに限定されるものではありません。